

研修目標と実習方法について

職種名「医学物理士レジデント」

1 概要

放射線治療を中心とした放射線医学分野において、医学物理士として必要な基礎的知識に加え、X線治療および陽子線治療に関する高度な治療計画技術、線量分布評価、品質管理（QA/QC）などの専門的知識・技術を体系的に習得する。臨床における安全かつ高精度な放射線治療の提供を支える専門職として、がん診療に精通した医学物理士を育成することを目的とする。

レジデント入職後は、経験や知識、希望等を考慮したうえで、標準的な教育カリキュラムに沿った研修を受ける。理学系や放射線技師出身者については、IMRT/VMAT や SRS/SRT や動体追尾などの高精度 X 線治療に加えて、陽子線治療における物理特性や治療計画、品質管理、線量測定手法などを含む、集中的な 2 年間の専門研修プログラムを提供する。これにより、X 線・陽子線治療の両領域で活躍できる即戦力となる医学物理士を養成する。

2 研修での到達目標

1. 各種がんの病態や放射線治療における適応を理解し、疾患特性に応じた治療方針の把握に努める。
2. 放射線治療の基本的な原理、照射技術、治療計画の立案方法を理解し、臨床における安全かつ精度の高い治療提供に貢献する。
3. 放射線治療に関連する有害事象や正常組織の線量制約に関する知識を習得し、治療の最適化に活かす。
4. 各疾患領域（脳・頭頸部・胸部・骨盤など）における臓器特性と照射計画上の留意点を理解し、臨床現場での応用力を高める。
5. 多職種チーム医療における連携体制とコミュニケーションの重要性を理解し、他職種との協働による質の高い医療提供に努める。
6. 医学物理士としての専門性（線量計算、品質管理、機器管理、安全管理）を自覚し、チーム医療における役割と責任を理解する。

3 実習内容

医学物理士レジデントは、がん診療における放射線治療を中心に、治療計画、品質管理、安全管理などの実践的知識と技術を段階的に習得する。研修期間を通じてリニアック、小線源治療、陽子線治療の各治療装置における専門的な臨床実習を行う。また、機器管理や安全管理の重要性を理解するとともに、チーム医療の一員としての役割を学び、他職種との連携に必要な知識と態度を身につける。